

さんいく ジオだより

新装第1号



三陸ジオパーク推進協議会
H25.6.7

いよいよ日本ジオパークへ申請

ジオパーク加盟申請書を提出

四月二日、宮古市役所において、三陸ジオパーク推進協議会の山本会長（宮古市長）「日本ジオパーク加盟申請書」を提出したことを発表しました。



記者会見の様子

質疑応答では、報道関係者からたくさん質問が出され、三陸ジオパーク構想への関心の高さを実感しました。

三陸ジオパーク構想は、青森県八戸市から、岩手県の沿岸（住田町を含む）、宮城県気仙沼市までの一六市町村をエリアとして申請しました。

日本ジオパークに認定されれば、南北の海岸線約三〇〇キロ、総面積約六〇〇平方キロの日本最大のジオパークが誕生します。

山本会長は「三陸復興国立公園の取り組みと連携し、自然と人のつながりが深い地域の特徴を生かし、交流人口の拡大に努めたい」と意気込みを語りました。

事務局一同、認定に向けて決意を新たにしました！



山本会長
意気込みを語る

日本ジオパークに認定されるには？

日本ジオパークは日本ジオパーク委員会（JGC）が審査・認定する（年1回）。認定されるには、公開プレゼンテーション（公開審査）と現地審査の2つのステップをクリアしなければならない。結果発表は早くも9月末の予定。

世界ジオパークとの違いは？

世界ジオパークはユネスコの支援を受けた世界ジオパークネットワークが審査・認定。日本では日本ジオパーク認定の後、約3年間の準備期間を経てJGCの推薦により初めて世界ジオパーク申請を行うことができる。日本国内に世界ジオパークは5地域ある。

ロゴマーク決定！！

山本会長とロゴマーク



今年二月〜三月に公募したところ、全国各地域より三八四件もの応募がありました。デザイン関係の有識者を含む選考委員会において審査した結果、石川県在住の米泉弘人さまの作品に決定いたしました。みんなでロゴマークを育てていきます。



ロゴマークのコンセプト：三陸ジオパークのイニシャル「S」をモチーフに、三陸海岸の特徴であるリアス海岸の海岸線を表現。全体のイメージは、ハート型の両手で地域を包み込む様子で、三陸の豊かな自然を育み、未来へとつなげていく姿をイメージ。